

## 平成23年度 手話サークルと都サ連

目的	東京都の区市町村で活動している手話サークルの恒常的交流と質的發展を図り、聴覚障害者団体との連携を強めていくこと。
活動	2ヶ月ごとに代表者会議を行い情報の提供や交換を行う。 代表者会議で都サ連通信の発行 自立支援センターまつり、耳の日記念文化祭や各種行事の手伝い 月1回の事務局会議 4ブロックで持ち回りの都サ連一日研修会の開催
三役	都サ連代表〔高田〕、事務局長〔三村〕、会計〔山田〕口
昭和38年	京都で全国最初の手話サークル「みみずく」誕生
昭和39年	蛇の目寿司事件
昭和42年	東京で最初の手話サークル「てまねを学ぶ会」誕生 立ち会い演説会に始めて手話通訳が付く(中野区)
昭和45年	手話奉仕員養成事業
昭和46年	東京の各区・市で手話講習会が開始される。 その後講習会修了者を中心に各地で「手話サークル」結成
昭和52年	2月16日東京都手話サークル連絡協議会結成集会在杉並で開かれる。 22サークルが加盟 代表:石川芳郎氏、会計:山田照子氏、事務局長:石原茂樹氏
昭和53年	全日本ろうあ連盟「手話サークルに対する基本方針」発表 ろうあ者の生活を高め、権利擁護の理念を具現化する道標となる。 全国各地で「手話サークルの運営に関して」の議論が起こる 三多摩手話サークル連絡会結成(三手連)
昭和55年	都サ連と三手連が統一される。
昭和58年	森谷誠氏が都サ連代表になる。
昭和60年	アイラブ・パンフレット(120万部)普及運動
平成3年	「手話サークルに関する指針」平成3年11月4日、 (財)全日本聾唖連盟第42回評議員会において採択
平成14年	村松直人氏都サ連代表になる。  たましろの郷オープン 1月に青梅の長淵丘陵の緑豊かな地に開設。 京都・大阪・埼玉・北海道に続き全国で5番目のろう重複者専用施設。
平成17年	都サ連加盟サークル42 障害者自立支援法成立
平成18年	障害者自立支援法施行 12月、国連で障害者の権利条約が採択
平成19年	都サ連加盟サークル35、都サ連代表不在 9月、障害者の権利条約を高村外務大臣が署名
平成20年	高田都サ連代表 都サ連加盟サークル32
平成21年	都サ連加盟サークル30
平成22年	都サ連加盟サークル30 「We Love コミュニケーションー情報・コミュニケーションは生きる権利ー国内法の整備と障害者権利条約の批准を求めて」パンフレットの30万部普及と「すべての聴覚障害者に、情報アクセス・コミュニケーションの権利を保障する法制度の実現を求める要望書」署名120万筆を目指した運動が始まりました。
平成23年	都サ連加盟サークル29 3月11日東日本大震災と計画停電の影響で夜の部の活動がままならず!